

## 沿岸被災地は今

# 緊急連絡システム導入

## 陸前高田スクールバス 地震発生時に備え

陸前高田市教委は、緊急地震速報発令時などに対応するため、市内小中学校のスクールバス11台全てに「バス安全運行管理システム」を導入し、8日に運用を開始した。運転席に取り付けたGPS（全球測位システム）機能搭載のタブレット端末を使って、市役所仮庁舎で運行状況を把握するとともに、庁舎内の緊急地震速報システムと端末を連動させ、運転手にいち早く安全確保を求め、庁舎とバスの双方向で緊急連絡を取り合える。

テレネット（本社長野県、青山貴子代表取締役社長）のシステムを導入。庁舎内のパソコン画面で、地図上に自動的に示されたそれぞれのバスの現在位置のほか、運転手が手動で送信した「運行中」や「回送中」などの情報を把握する。

また、庁舎内に設置した高度利用型緊急地震速報システムで地震の初期微動を検知し、速やかに運転手へ揺れを

警告して安全な場所に停車させた上で、現在位置によっては庁舎から個別に高台への避



地震発生時などに備えてスクールバスに取り付けられたタブレット端末を操作する運転手。8日、陸前高田市

う。災害時に強いデータ通信で連絡手段を確保することで、庁舎とバスの相互間通話を実現。降車して避難した後もタブレット端末を外して持ち歩けるため、庁舎との連絡が継続して可能となる。

開始初日は青山社長が同市に訪れて視察。「緊急地震速報に備えて車内でラジオをつけっ放しにするようなことがなくなり、システムによって地域に応じた詳細な情報が速やかに伝達できる。災害時に強い連絡手段も確保され、これまでの不安の解消につながるのではないかと話していた。